松本市森林再生市民会議　令和５年度第３回運営委員会　議事録要約書

日時　令和５年６月２７日（火）
午後７時～９時
場所　松本市役所３階 大会議室

～ 議事概要 ～

■会議事項

1　第１回イベントについて（資料１）

- 第１回イベントの内容は以下のとおり。
  - ・日時：令和５年７月２９日（土）午前９時～正午
  - ・会場：本郷地区山林（浅間温泉 大音寺山周辺）
  - ・内容：山林見学、草刈り体験
- 山火事から山林が自らの力で再生する姿を実際に見学できるという点と、林業の専門業者でなく一般市民の整備活動で再生を後押しできるという点も参加者にアピールしていただきたい。

2　Ｒ５スケジュールについて（資料２-１、２-２）

- 森林の機能･環境･場所の多様性を担保できるよう、イベントの内容を考えていけるとよい。
  - ・機能：災害防止、温暖化対策、水資源確保、大気・騒音と癒やし（保健休養）、生物多様性 等
  - ・環境・場所：対象とする森林は山の中だけで良いのか、街の中の緑をどう意識するのか
- ビジョン策定後に取り組みを推進していく主導的役割を担ってほしいのは我々委員ではなく市民であるため、来年度のイベントでは市民自らが企画していく要素を取り入れることも必要か。
- アンケート結果をフォーラムで示せるようスケジュール調整した方が良い。

3　森林長期ビジョンについて（資料３-１、３-２）

- ビジョンの作成に際し、予め委員に先行事例の資料を提示していただけると、内容を膨らませやすい。

  例）伊那市「50 年の森林（もり）ビジョン」、岡山県西粟倉村「百年の森林（もり）構想」
- プレスリリースや概要版といった文書による発信のほか、より市民がビジョンを理解しやすい PR 版的なものも同時に作っていくことが望ましい。そのためには、委員以外の専門家の力も借りながら映像的な要素も取り入れなければならないのではないか。また、ビジョンの冊子には、様々な立場の市民が勉強会を開いたりイベントを企画したりするような仕掛けづくりの内容が含まれていると良い。
- ビジョン普及のためのツールをビジョン策定と同時に準備しようとするなら、ビジョンの内容を今年度末くらいまでにはある程度固めておかなければならない。

- まずは、ビジョンの核となる「③松本市における森林と市民との関係の将来像」（資料２－１参照）の部分をきちんと議論する場を設けなければならない。そこで、次回の運営委員会は③を徹底的に議論する場とし、ブレーンストーミングの手法を用いて委員が意見を出し合い、方向性を見出す作業が必要ではないだろうか。
- 将来像の検討に際しては、社会背景が転換するのがだいたい 10 年単位であることを考慮し、例えば 10 年単位でビジョンを見直しながら現実的な将来像を設定していくという視点も取り入れていくことが肝要か。

４　アンケートについて（資料４）

- 市民に対して分かりやすいことが必要であるため、フォーラムでは市民に対して訴求力のあるデータをなるべく簡単かつ分かりやすい形で提示したい。
- 資料４にある対象者の他に、森林関係者（木工作家、森林に関係する宿泊業者等）や関係人口（松本在住ではないが松本の森林に関心のある方々）も対象に加えてほしい。

５　松枯れ被害対策基本方針について（資料５）

- 松枯れ対策については、当初からこのビジョンを考える際の中心的なテーマでもあるので、松枯れ後の森林をどうするのか、また被害材をどのように利用していくのか、我々委員も議論していけると良い。

■その他

- 今年度第２回と第３回のイベント担当委員を以下のとおり決定。
  ・第２回イベント（保健休養関連）：大田委員、清水副委員長、（小山委員_サポート）
  ・第３回イベント（牛伏川フランス式階段工見学）：小山委員、永原委員、三木委員

議事録要約

１　委員長あいさつ

（三木委員長）

令和５年度の第３回運営委員会を開催したい。今回は傍聴席で市民の方にも傍聴していただいている。

２　会議事項

（1）第１回イベントについて（資料 1）

（小穴委員）

山林火災の現場は火災後 21 年を経て写真のような状況になっている。見学時は「浅間温泉木の絆会」会長の久保村から説明させていただく予定である。草刈り体験は経験者ではなく未経験の参加者に合わせて慎重に行いたい。そのほか熱中症対策と蜂刺され対策についても十分配慮したい。山林見学と草刈り体験終了後は、時間があれば近くのホタルの里公園に立ち寄ることも検討している。

大音寺山の夫婦岩があるところまで、麓からゆっくり時間を掛けて説明しながら見学する予定である。通常なら 20 分で到達できるところを 1 時間ほど掛けて説明しながら歩きたい。

（三木委員長）

案内チラシには集合場所が現地集合となっているが、これだけを読んで参加者が来られるか少々心許ない。地図など追加掲載すると集合しやすいのではないか。

（清水副委員長）

このイベントで一番ポイントになるのはどういった点か。

（小穴委員）

気持ちが穏やかになれる山との触れ合い方を参加者に伝えたいと思っている。今から身構えて準備するつもりはなく、普段行っている山林整備を一緒に体験してほしいと考えている。

（清水副委員長）

他の山林活動と差別化することがとても大切で、過去に大変な山火事が発生し、その状態から山が生き返ったことをもっとアピールすれば、関心を寄せる参加者も必ず現れるのではないかと想像する。

（小穴委員）

現地を直接見ていただければ、どこから火が出てどういうふうに延焼が広がっていったかもよく分かる。山火事の怖さも知っていただきつつ、再生すれば子ども達でも安心して入ることができる山林に戻ることを感じてもらえるよう説明したい。

（三木委員長）
　例えば、チラシに「山火事からの復活」といったサブタイトルを入れると、もう少しイベントの趣旨がはっきりするのではないか。

（永原委員）
　草刈り体験では実際に参加者が刃物を使って作業するということだが、傷害保険へは加入しているか。蜂刺されについても気になる。

（市）
　市の方でイベント保険に加入している。

（小山委員）
　イベント保険の適用範囲で対応可能か、念のため確認しておいてほしい。刃物を使用する場合、通常のイベント保険では適用範囲外である場合もある。

（市）
　刃物使用による負傷及び蜂刺されについて、保険の適用範囲を確認しておく。

（小穴委員）
　蜂刺され対応については、蜂専用の殺虫剤スプレーはこちらが携行し、危険を察知した場合はすぐに対処したい。合わせて、危険時にはホイッスルを鳴らすことを事前に参加者に周知徹底したいと考えている。また、最寄りの本郷消防署にも緊急時の対応について事前に連絡しておく予定である。

（三木委員長）
　事務局の方で緊急時の連絡体制についても作成願いたい。

（香山委員）
　林業事業者ではなく地元の市民参加の NPO 法人が山火事からの森林再生に深く関わっているという点を参加者に伝えられると良い。林業のプロではない普通の市民が大変な努力をしながら、結果として現状に至っているという点を是非参加者に伝えてほしい。

（三木委員長）
　山林自身が再生すると同時に、市民が再生を後押ししているという点もチラシのサブタイトル等でうまく表現してほしい。

(2) Ｒ５スケジュールについて（資料２－１、２－２）
（市）
　令和５年度のスケジュールについて説明させていただく。

（香山委員）
　アンケートとフォーラムを連携させた方が良いと思う。アンケートの結果をフォーラムに反映させていくような形になると良い。

（小山委員）
　昨年度のイベントは１回目：レクリエーション利用、２回目：林業現場での松枯れ対策、３回目：大規模な側面からの木材利用に関してであった。次回のイベントは「市民が参加した森林再生」というテーマ設定か。
　一方で、世論調査等による森林機能への期待について鑑みた場合、災害防止、温暖化対策、水資源確保といった点が比較的上位を占めている。これらに続くものとして大気･騒音と癒やし（保健休養）が挙げられる。これらについては順位が低いものの、若い方々の関心が比較的高い。こういった点を踏まえ、今年度第２回イベントについては大気・騒音や癒やし（保健休養）といった機能面を取り入れてみては。
　第３回イベントについては災害防止と水資源確保の点で計画してみるといったふうに、テーマ設定を明確にした方が良いのではないか。昨年度～今年度と２年間を掛けて我々が考えている森林の機能についてイベントを通して網羅できれば良い。生き物の多様性や、森林の対象範囲、具体的には対象とする森林は山の中だけで良いのか、街の中の緑をどう意識するのかといった点を今年度第４回以降のイベントのテーマとして取り入れるような工夫もあるかと思う。機能・環境・場所の多様性を担保するようなイベントの内容を考えていければ良い。

（三木委員長）
　小山委員のご意見は表現方法の点からのご指摘で、実施するイベント自体は概ね資料で示された内容で良い。森林と街の視点を加えると必要な要素としてはかなり網羅できるのではないか。生物多様性の要素は今年度含まれていないので、来年度検討した方が良さそう。

（清水副委員長）
　アンケートについては、先日事務局と行った打合せでフォーラムと連関させようという話が出ている。市民に対して分かりやすいことが必要であるため、フォーラムに出すためにすべての解析を間に合わせるというよりも、突出して興味深かったり耳目を集めたりしそうなデータを提示できれば。
　アンケートの設問設計は結構複雑であるため、解析を急いでおかしな考察を導き出さないように慎重に進めなければならない。フォーラムでは、市民に対して訴求力のあるデータをなるべく簡単で分かりやすい解析で提示したい。

（三木委員長）
　例えば、若年層だけに注目して解析したり、居住地域を山側だけに限定したりするなど、注目する要素を絞ってしまえば作業しやすくなる。

(3) 森林長期ビジョンについて（資料３－１、３－２）

（環境アセスメントセンター）

森林長期ビジョン作成に向けたロードマップイメージと目次構成案について説明させていただく。

（小山委員）

資料３－１の「③松本市における森林と市民との関係の将来像」に向かって収れんしていくというイメージは非常にシンプルで分かりやすい。我々はこの③の部分をしっかり議論していき、フォーラムでは③に関して何が足りないのかという点に注目し、フォーラム後のイベントでは、足りない部分について市民の声を聞くよう企画していく流れが良い。

（渡辺委員）

森林長期ビジョンの作成に際し、ある程度イメージできないと内容を膨らますことが難しいため、先行事例の資料が提示されるとありがたい。例えば、伊那市だと 50 年先のビジョンを掲げていたり、岡山県の西粟倉村では「百年の森林（もり）構想」と銘打った活動が進められている。こういった事例をいくつかピックアップし委員が予め目を通しておくと、内容が膨らむのではないか。

（小山委員）

50 年、100 年の森林構想は全国各地にあり、各地域の特性や実情に合わせて作成されている。松本市であればどういった特性や実情を踏まえ作成していけば良いかを考える際の参考になる。

（三木委員長）

他地域のビジョンをまとめて紹介する機会があっても良いかと思う。松本市は何を目指すのか、欲をいえばひと言くらいでうまく表現できると良い。ビジョン全体の分量がどの程度になるのか、分厚くなってしまうと市民が読んでくれるのかといった点が心配になるので、ビジョンの本文はなるべく短くして、写真やイラストを多用したわかりやすい表現にする必要がある。資料集では、根拠や詳細な結果などを掲載して分厚くなっても良いと思っている。

（香山委員）

ビジョン策定後のことも考えながら作成していくことが必要。大抵の場合はプレスリリースや概要版を作るが、これが一番普及する。ただ、こういったものは大抵あまり面白くない。市民がビジョンを理解するためのＰＲ版的なものを同時に作っていくことがポイントで、おそらく映像的な要素を取り入れなければならない。予算取りの問題もあるため、取り掛かるのであれば今からでもすぐに議論しなければならないくらいのスケジュール感かと思う。

冊子については、松本市の森林に関わる市民が常に参照できるような要素が含まれていると良いと思っており、様々な立場の市民が勉強会を開いたりイベントを企画したりするような仕掛けづくりの内容が含まれているのが望ましい。これは体制に関わる問題かと思うが、すぐに動き出

せるような仕組みづくりの内容がビジョンの中に仕込まれていて、組織を作らなくても身軽に動き出せるようなツールが準備されていると良いのではないか。

（三木委員長）
ツールはビジョン策定の後ではなく、策定に合わせて同時に作るということか。

（香山委員）
時間が経過すると熱も冷めてしまう。やり方は工夫次第で、運営委員がこういったツールを作るのは難しいと思うので、委員以外の専門家が参入してビジョンのＰＲ版を作る作業を進めていければというイメージを持っている。例えば、映像やグラレコを取り入れたり、ビジョン自体を絵本で紹介したりするといった専門家による表現を取り入れて、ビジョンが出来上がったと同時にリリースできると面白い。運営委員の方はテキストとしてのビジョン作りに注力していくことになるか。

（三木委員長）
ビジョンを冊子として納品するだけに留めず、ビジョン自体が市民の中に浸透していくことが大切であるため、普及のためのツールをビジョン策定と同時に準備しておくのは方向性としては間違いない。ただ、それを実行に移そうとすると、ビジョン自体を割と早めに、例えば今年度末くらいには固めておかないと、ツールを作る方々に必要な情報を伝えることができないと想像する。

（小山委員）
香山委員のご意見は、資料３－１の「④森林づくりの基本方針」「⑤森林づくりの基本施策」「⑥体制」に関わる内容で、一方で、先程来の議論では③（注：松本市における森林と市民との関係の将来像）について今年度中に形にしておきたいということだったかと思う。
まとめると、我々運営委員が今年度注力しなければならないのはまず③の部分で、③をしっかり市民に伝えていくための④⑤⑥は、今から準備しておきましょうという交通整理が一番シンプルではないだろうか。もしそうであれば、③を議論する場を一度きちんと設けなければならない。フォーラムを開催する前に、我々運営委員はこう考えるといったたたき台を作らなければならないと思う。
そこで、次回の運営委員会では③をどうするのか徹底的に議論する場にしなければならないのではないだろうか。今回のような通常の会議形式ではなく、ブレーンストーミング的に委員が言いたいことを出し合って意見を収れんし、方向性を見出す作業が必要かと思う。

（清水副委員長）
まずたたき台はいるかと思う。50 年先とか 100 年先の森林の姿は市民には思い描きにくいのではないだろうか。順応的管理（アダプティブマネジメント）といって、大きなたたき台を決めながらも、社会背景が転換するのがだいたい 10 年単位であることを考慮すると、10 年単位でビジョンを見直しながら現実的な将来像を設定していくことが大事か。
ビジョン策定後、松本市はどのくらいの期間活動していくのか、まずお聞きしたい。次に希望

として、森林は10～15年くらいのサイクルで次にどう変化していくのかある程度見通しが立つので、森林のサイクルに合わせた大きなテーマ設定を行うことが現実的。

（市）
活動期間について特に何年と決めているわけではなく、この会議の中で決めていただければと考えている。ビジョン策定後、５年後や10年後には何が必要になるのか分かってくると思われるため、松本市の方でビジョンに則った方策を考えることになる。

（清水副委員長）
参考までに、戦後復興期から現在に至るまで、だいたい20年おきに社会背景は変化しており、世の中の関心もこの社会背景と連動する形で変化している。アンケートの有効期間はだいたい10年間で、森林のサイクルが10～15年であることも考え合わせ、どれくらいの期間で区切って考えていくか、根拠を持って市民に分かりやすく示すことが重要。

（香山委員）
前回のフォーラムでは熱い想いを持って参加された市民の方々がおられ、この運営委員会に対して強い期待を寄せられていた。フォーラムでは「運営委員会は市民による森林ビジョン作りをサポートする位置付けで、運営委員会でビジョンをすべて作るのではなく、主体は市民である。運営委員が森林ビジョン作りのコアメンバーであるなら、市民はその周辺メンバーとして是非参加してほしい。その一つ方法としてイベントがある」といったことを参加された市民に説明した。
継続的にイベントに市民が参加するようになれば、周辺メンバーとして森林長期ビジョン作りに積極的に取り組む方々が現れ、ビジョン策定後は取り組みを推進していく主導的役割を担う人材がその中から育っていくのではというイメージを抱いている。来年度のイベントのデザインとしては、市民が企画していく要素を取り入れることも必要。

大町市ではビジョン作りに行政が関わらないと宣言したため、行政に頼らずビジョンを作る市民運動が始まった。そのための企画を作って申請したところ大町市から補助金が下りたため、この先うまくいくかどうか全然分からないが、最終的には行政の進めていく政策とカウンターパートになる活動として動いていくことができればと思う。松本市のデザインとしては、すでに市民側の熱い想いを拾い上げつつあることから、それをうまく取り入れていきたい。
「こういう動きをするならこういう予算立てが必要」といった話も進めていかなければならないタイミングに来ていると思っており、進めるのであれば早い方が良い。③に関しては、今年度の終わり頃にはそれなりのものを形作っていくため、しっかり時間を掛けたブレーンストーミングの場を設けた方が良い。

（三木委員長）
③を詰めていく作業は早い方が良い。次回運営委員会のやり方や時間帯について考えたい。

（清水副委員長）

現在森林はどういう時代なのか、社会はどういうふうに変化していくのか、変化していく中で森林固有の普遍的な良さと松本市ならではの良さを整理しておくことが必要で、何が普遍的で何が変化していくのか考えておくことは大切である。

（渡辺委員）
③を対象にしたブレーンストーミング形式の会議を実施するのであれば、フォーラム前の７～９月で、平日だと仕事がある委員も多いと思うので、土日で３時間ほど設定するようなイメージかと思う。

（清水副委員長）
ブレーンストーミングはよく実施するのだが、いつも尻すぼみになってしまって何が結果か分かりづらくなることが多い。まとめる専門家がいるといいと思うが、いかがか。

（小山委員）
意見を出す時間とまとめる時間を分けることがポイントで、意見を出すだけでもおそらく２時間程度は掛かって、一旦意見を出し切ってからまとめていく時間をきちんと設定することが重要である。例えば、意見を出し切って一旦クールダウンする時間を設けた後、冷静な視点でキーワードとして整理していく作業が必要か。意見出しだけで終わらせない工夫が必要かと思う。

（三木委員長）
クールダウンさせる時間は、昼休みだけで良いのか、数日置いたほうが良いのかなど、やり方は慎重に考えた方が良さそうである。何れにせよ意見の出しっぱなしではまとまっていかないので、うまくまとめていける時間配分を考えたい。

（4）アンケートについて（資料４）
（環境アセスメントセンター）
アンケート計画案について説明させていただく。

（渡辺委員）
資料にある対象者の他に森林関係者も加えたい。具体的には、木工作家や宿泊業など林業には従事していないがエンドユーザーを対象に事業を展開されている方々で、そういった方々の意見を取り入れたい。また、松本に住んではいないが松本に関心のある方々、例えば地元が松本だった人、学生時代に松本に住んでいた人、観光などで毎年１年に１回は松本を訪れるような人といったふうに、関係人口の意見も取り入れたい。
そのために、松本市外の方々に対してアンケートを取るのであれば、facebook でアンケートフォームのリンクを貼ったり、ＱＲコードで読み取れるチラシを観光施設で配布するといった方法が考えられる。森林・林業に関心は高くない一般市民の意見を拾い上げるのはとても難しいと思っていて、そもそも関心がない人にアンケートが送られてきても回答しないと思う。どうやって工夫してこういった市民の意見を吸い上げるのか、委員の方々と検討したい。

子ども向けアンケートは是非実施してほしい。森林は50年、100年といったとても先の未来に繋がることで、将来世代の子ども達の意見は是非取り入れられたらと思う。

（三木委員長）
森林関係者は森林事業者の中にかなり包含されるのではないかと思う。カテゴリー分けをうまく工夫できると良い。関係人口に関するアンケートについては、ｗｅｂアンケートのような形を想定するが、それ以外のやり方は難しいのではないか。一般市民へのアンケートは難しい面もあるが、一般的に２～３割の回答率であることを考慮すると、何らかの意見は得られるのではないかと想定している。
アンケート調査票についてはアンケート部会から提示していただき、委員からご意見を伺うことになるかと思う。

（5）松枯れ被害対策基本方針について（資料５）
（市）
松本市松枯れ被害対策基本方針について説明させていただく。

（小山委員）（補足資料説明）
補足として、全木伐倒処理と樹種転換が高標高地への被害拡大を抑制する事例について報告

（三木委員長）
松枯れ対策については、当初からこのビジョンを考える際の中心的なテーマでもあるので、松枯れ後の森林をどうするのか、また被害材をどのように利用していくのか、我々も議論していけると良い。

３　その他
（三木委員長）
今年度２回目以降のイベント担当は前回委員会で出た案から、第２回は大田委員、第３回は小山委員に担当していただければと思っている。一人では難しいため、追加で担当委員を決めたい。

（小山委員）
第２回イベントについては、前回委員会で清水副委員長からも多くのご助言を頂いているので、大田委員と清水副委員長で進めていただいてはどうか。場合によっては私もサポートに入る。
第３回イベントについては、永原委員が現場にも詳しいので一緒に担当できると嬉しい。

（永原委員）
仕事で入ったこともあるので、現場のことはある程度分かる。承知した。

（三木委員長）
以上で第３回運営委員会を終了とする。次回は８月下旬頃を予定したい。